廣﨑 誠治 議員

スポーツ振興・施設整備は

坪根町長

体育館建設など総合的に勘案しながら検討

問 議会全員協議会での説明では体育館の面積は、3500～4000㎡と今のトレーニングセンターよりかなり広く大きなものになると推測されるが、グラウンドの利用は。

村上教務課長 現在の総合グラウンドは少し狭くなるが、野球場1面は確保したいと考えている。屋外施設については、多目的運動広場のほうに集約という方針で今後進めていきたい。

問 施設の構成と想定規模の中に、キッズスペースというのが載っているが、中津市サンリブ3階にある「こどもいきいきプレイルーム」と似たような施設をつくるのか。

村上課長 キッズスペースなど諸々については、今後検討していく。

多目的運動広場周辺の開発は

問 元県営テニスコートの改修計画は。人工芝にしたらどうか。

村上課長 屋外体育施設を集約するという計画で進めている。整備には議員の意見も参考に今後検討していきたい。

問 県より譲り受けた北側のグラウンドの今後の整備計画はどうなっているか。人工芝グラウンドにしてフットサルやテニスなどにも利用できる多目的グラウンドにしたらどうか。

村上課長 その点についても今後検討していきたい。

問 テニスコートと多目的グラウンドの間に町道が通っているが、奥にある土砂を運ぶ業者の大型トラックが頻繁に通って危険でもある。テニスコート、グラウンド整備の際、町道の移動は考えられないか。

村上課長 その点についても検討する際、参考にさせていただく。

問 スポーツ施設を充実し、上毛スマートインター及び10号線を利用し、外部から人を集める施策を行うことは上毛町の名前を売ることができると思うが町長はどう考えるか。

町長 スポーツ施設については指摘のテニスコートに限らず、サッカー、野球、いろんなスポーツを含めて十分総合的に勘案しながら検討していきたい。

河川管理は

問 昨年起こった西日本豪雨などで想定外の雨が降り、予期しない河川の氾濫や堤防の決壊による人命や家屋、農作物の冠水による被害が広範囲に渡った。幸い本町は降雨量が少なかったため大きな被害には至らなかったものの、集中豪雨が起きれば河川の氾濫や堤防の決壊が想定されるところもあるように思う。河川の堤防などに木が生え、堤の石積みなどがずれている箇所が結構あると思うが、管理はどうなっているか。

尾崎建設課長 堤防の管理は現在、隣接所有者や自治会などで草刈り作業を行ってもらっている状況である。また特に繁茂した場合には町のほうで草刈りなどを行っている。

問 県営河川について、上記の要望があった場合どのようにしているか。特に中小の河川が流入する黒川は、上流からの堆積物で河床が上がり灌木が生えて水をせき止めているため、川筋が堤防の方に変わるなどの危険があると思われるところがある。どのような要望を県に対して行っているのか。

尾崎課長 県営河川で要望があった場合は、現地で内容を確認し、京築県土整備事務所の河川砂防課へ随時要望を行っている。本年度及び昨年度も、3回ほど樹木の伐採や浚渫（しゅんせつ）の要望を出している。

問 町民にとって河川は町営であろうと県営であろうと同じで、生活や農業経営にとって重要な問題。災害が起こりそうな箇所があれば早急に対処はできないか。

町長 今年もエルニーニョ現象ということで、渇水や洪水など非常に懸念される。いつどこで何が起きてもおかしくない、そんな状況の中で、しっかりと地域を歩いて、危ない箇所については優先順位を決め、県に対して要望していきたい。

▲黒川の様子

三田 敏和 議員

人口一万人構想は

坪根町長

一つの方向を目指し必ず成し遂げたい

問 今後の入学者推計は。

道免教育長 表のとおり。

年度別小学校入学者数

入学年度	友枝小	唐原小	南吉富小	西吉富小	合計
令和2年	12	11	26	18	67
令和3年	15	13	43	13	84
令和4年	13	10	27	9	59
令和5年	9	14	23	12	58
令和6年	5	8	19	11	43
令和7年	5	10	9	8	32
合　計	59	66	147	71	343

問 数字も見ても厳しい状況にある。学校教育の今後の課題は。

教育長 複式学級という大きな課題がある。問題点として、きめ細かな指導ができにくい、児童の資質能力を育む上での課題など、児童、教員にも負担が大きい。理想として1クラス20人以上欲しい。

問 人口1万人を目指すためには、いち早く手を打たなければならない。どう考えるか。

坪根町長 上毛に住みたいが土地がないという声を聞く。空き家も難しい面が多い。分譲地が4校区にバランスよくできればと考えている。

問 具体策は。

堀企画情報課長 コモンパーク上毛彩葉に200名の方々が定住した。現在、分譲地を15候補地挙げ検討を進めている。

問 自然減を食い止めるには相当な努力が必要。町長の使命感、各課の要望も大きくなるがどうか。

町長 一つになって方向を目指せば達成する。必要なものは整備していく。スーパーの誘致、雇用増、教育を高めて必ず成し遂げたい。

歩道の安全確保は

問 通学路などで学校から要望はあるか。

教育長 保護者などから53件挙がったが、改善の必要な個所が11件ある。県道に係る部分で既に完了、及び計画中の案件がある。

問 県河川の雑木が道路を狭めている処があるが、対応は。

尾崎建設課長 県に再三要望しているが、優先順位などがあり着手できていない状況である。

防災対策は

問 避難所に乳幼児がいる場合、ミルクなどの備蓄は。

岡崎課長 現在、粉ミルクを400食分備蓄している。

問 熊本地震で水がなくても授乳できることで話題となった液体ミルクを備蓄してはどうか。

岡崎課長 賞味期限が1年と短く、期限前に活用しなければならず、導入に関しては協議が必要となる。

問 食料備蓄品は、保育所、乳児健診等々で広く認知度を上げていくことは必要。現在、賞味期限前の活用はどうしているか。

岡崎課長 熊本地震などの被災地支援に活用した。平時では防災訓練などで活用するのが望ましいと考えている。

問 防災Wi-Fiを町内9か所に導入し、広報、HPで周知しているが分りづらい。

岡崎課長 広報3月号に掲載したが、再度対応を考えたい。

問 支所の二階は活用できない。昨年は二階に避難者がいた。活用範囲を広げるべきではないか。

岡崎課長 今回は国の防災関連の補助を活用した。事業完了直後でもあり、若干時間を頂きたい。

ふるさと納税の対応は

問 特産品がない中、今年、養豚事業が町内で始まる。返礼品となり得るのではないか。

堀田税務課長 地元で育てるので、地場産肉として返礼品化は可能と考える。

問 特産品開発は時間と金が掛かる。高齢化などにより特産品の柿羊羹事業をやめたと聞くが。

円入産業振興課長 昨年12月に販売をやめた。組合は解散したが、次に繋げるところを探している。

問 ふるさと納税の推移は。

堀田税務課長 表のとおり。

ふるさと納税寄付額　※単位：万円

平成30年	10月	40,236
	11月	86,660
	12月	173,603
平成31年	1月	533
	2月	376
	3月	523
	4月	367
令和元年	5月	297